

(注) 相当スラブ厚 床に衝撃を与えた時に階下室内に発生する衝撃音に対し、床仕上げ構造による遮音効果を見込んだ補正を行った床の遮音性能を、コンクリート版の厚さに換算して表したもの

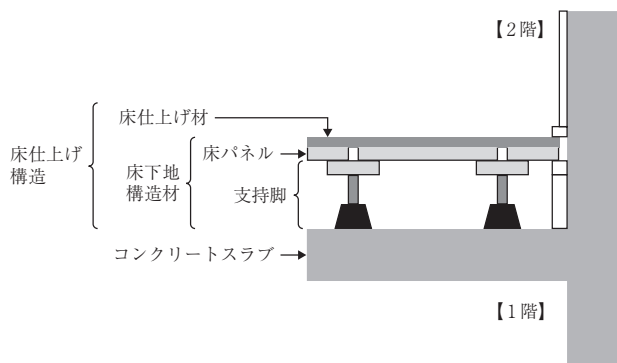


図-1 床仕上げ構造の概念図

本件は、公営住宅の整備基準に適合しているかを確認したところ、この事態が判明したとのことですが、同様の事態は平成23年度検査報告にも掲載されています。手直し工事は、階下住戸天井に炭材を敷き込むことで、よりレベルの高い遮音性を確保しました。

4. おわりに

例年であれば、この月末に平成30年度決算検査報告の概要について、関係各府省等への内示が行われ、また、その翌日にはマスコミに対する説明も行われますので、今年の報告事項に関わりがある場合は、取材等に対する準備が必要です。

Dr.クマの“健康のヒント”

ながびく咳にはご注意を



今年は百日咳の患者さんが多い。8月時点の報告数が昨年を超えたという。百日咳は感染力の高い激しい咳を特徴とする呼吸器感染症で、昔は乳児が死亡する主な病気であった。しかし、近年はDPT（ジフテリア・百日咳・破傷風）ワクチンの普及により劇的に流行が抑えられていた病気である。それがなぜ今、問題になっているのか。ワクチンを接種した場合、その病気への免疫ができ、感染症にかかりにくくなるのだが、その免疫には種類があり、一生有効な場合と、一定期間有効な場合とがある。百日咳ワクチンの免疫は10年程度しか続かないため、成人は細菌にさらされると感染してしまうわけだ。大人が百日咳に感染した場合は乳幼児に比べて症状が

軽く、風邪で咳が長引いている状態と受け止められやすく、百日咳と気づかずに治ってしまうことが多い。実は、ここに問題がある。百日咳だと気づかないために、周囲に感染をひろめてしまうのだ。特に予防接種が終了していない乳幼児がいる家庭での感染が心配されている。適切な抗生物質を用いた治療で百日咳菌の排出は抑えることができるし、以前は時間がかかっていた診断法も進歩している。前にも書いたが、感染症の流行を抑えるためには自分が感染症にならないことと、感染した場合にはそれを広めないことのふたつが重要だ。風邪症状の後にながびく咳にはご注意を。

(北里大学医学部 教授 熊谷 雄治)